

令和8年度 田辺市高校生議会 実施報告書

～高校生の私たちが、地域のためにしたいこと～



田辺市議会

令和8年9月

1. 実施目的

社会経済の急速な構造変化を背景に、住民の代表である地方議会には、多様化する民意の集約と行政への反映が期待されている。そういった中で、地方議会に対する住民の理解と関心を深め、多様な人材の地方議会への参画促進の一助とするため、将来の担い手である高校生に議会への興味や政治への関心を持っていただくとともに、まちづくりに対する思いや意見を今後の市政への参考とする観点から、三議長会が一体となって取り組んでいる「主権者教育」の一環として、令和6年度に続いて田辺市高校生議会を開催するもの。

2. 主 催

田辺市議会

3. 開催日時・場所

日 時：令和8年8月7日（金） 13 時 00 分から 16 時 30 分

場 所：田辺市役所6階 議場及び委員会室

【当日のタイムスケジュール】

12:30～	受付開始
13:00～13:25	オリエンテーション
13:30～13:50	一日の流れの説明、自己紹介
13:55～14:55	意見交換
15:10～15:25	意見発表まとめ作業
15:30～16:10	意見発表
16:10～16:30	記念撮影

4. 参 加 者

(1) 高校生：8人（田辺工業高校4人、南部高校龍神分校3人、南紀高校1人）

※田辺市に所在する高等学校5校に在学中の生徒に対して募集（定員 18 人）

(2) 市議会議員：8人

佐井議長、宮井副議長、前田議員、笠松議員、林議員、柳瀬議員、浅山議員、橘議員

【当日の様子（意見交換・意見発表）】

◇グループA



意見交換の様子①



意見交換の様子②



議場での意見発表

◇グループB



意見交換の様子①



意見交換の様子②



議場での意見発表

5. テーマ

「高校生の私たちが、地域のためにしたいこと！」

高校生4人、市議会議員4人がそれぞれ2つのグループに分かれて意見交換し、その内容を高校生が取りまとめたうえで、議場において意見発表を行う。

【グループA】

■ 高校生が提案する「田辺がこうなったらいい！」

高校生活の中での実体験や日常の疑問をもとに、住みよい街づくりに向けた具体的なアイデアが出された。

・自転車安全に走れる道路環境の整備

⇒道路交通法の改正等に伴い、車道の走行が増えたことで通学時間帯の危険性が高まっているため、安全確保が急務であるとの意見が出された。

・若者が集まり交流できる場所づくり

⇒若者が立ち寄りやすいおしゃれな商業施設（ラウンドワンのような複合エンターテインメント施設等）や、避難タワーの屋上空間を活用した交流スペースの設置などのアイデアが出された。

■ 課題解決に向けた高校生・地域の具体的な取組

出された課題に対し、行政や議員からの助言も踏まえ、高校生自身が取り組めるアクションや地域連携についての議論が行われた。

・自転車交通安全へのアプローチ

⇒自転車専用レーンの設置、時間帯に応じた車両通行止め、夜間照明の設置などの環境整備に加え、高校生自身ができることとして「ポスター等による啓発活動」や「学校・保護者・地域と連携した要望活動」が提案された。

・高校生目線による魅力・情報発信

⇒田辺市は豊かな自然に恵まれながらも知られていない場所が多いことから、高校生が記者となって田辺市公式サイトへ動画や記事を投稿・発信するアイデアが出された。

・意見を行政に届ける仕組み

⇒若者の意見を継続的に届ける手段として、意見ボックスの設置やアンケート調査の実施などが提案された。

【グループB】

■ 龍神地域の魅力発信について

龍神地域については、人口減少と高齢化への危機感が強く、「若い世代が地域に残れる環境をどうつくるか」が大きなテーマとなり、主な意見は以下のとおりである。

- ・観光資源を活用した仕事づくりについて
- ・「幻の熊野古道・奥辺路」など、まだ十分知られていない地域資源のPRについて
- ・TikTok や Instagram などを活用した若者目線での情報発信について
- ・都会から地方への移住を考える人へのアプローチについて
- ・龍神の自然を活かしたスポーツ合宿や教育移住について
- ・トレイルマラソンやチェーンソーアートなど、森林や山を活かしたイベント実施

■ 田辺市全体の魅力発信について

田辺市全体を見ると、扇ヶ浜や田辺スポーツパーク、天神崎など、市外及び県外の人々にまだまだ十分知られていない資源があり、その魅力をもっと効果的に発信することができないか。

- ・単に景色や施設を SNS に掲載するだけでなく、「そこへ行ったら何ができるのか?」「近くにどんな飲食店や楽しめる場所があるのか?」といった周辺情報についてもセットにして組み込んで発信することが重要ではないか。
- ・SNS については必要性が繰り返し指摘されながら、実際には「誰が運営するのか」「継続して発信できるのか」が大きな課題ではないか。
- ・その他、SNS の活用にあたり、効果的な発信には初回のインパクトが重要であることから、有名人の起用も効果的ではないか（坂本冬美、溝端淳平、岡本玲、鬼滅の刃の声優等々）。

■ 高校生が主体となる情報発信の可能性

- ・高校生自身が地域の情報発信に積極的に関わっていく。

⇒神島高校の「神島屋」のような活動を参考に、高校生が様々な地域資源を取材し、自分たちの感覚で SNS 等を通じて発信する「SNS 部」のような仕組みや、各高校の代表者が横につながる仕組みづくりなどが提案された。

⇒行政が SNS を運営する場合、内容や発想が硬くなり、特定の店舗等を紹介する際には公平性が課題となる場合もよくある。その点、高校生が主体となり、学校、地域、観光関係団体等がサポートする形であれば、若者らしい柔軟な情報発信につながる可能性が期待できる。

■ 既存イベントと高校生との連携

最初から新しいイベントを立ち上げるだけでなく、既存の地域イベントに高校生が参加するという手法について、以下の意見が出された。

- ・イベント会場への「高校生ブース」の設置について
- ・高校生による来場者や出店者へのインタビューについて

- ・各高校による商品販売や学校対抗企画について
- ・地域のまつりや伝統行事への高校生の参加について
- ・高校生自身による映像制作や SNS による発信について

⇒意見交換の中で、議員から今年開催の第 36 回熊野古道清姫まつりでは、中学生がイベントブースを主体的に企画運営した事例（中学校グッズの物販や腕相撲選手権等のイベントを開催。当日は出演者、行政、スタッフ、観客への動画撮影とインタビュー、各演目のメイキング映像の製作、会場 BGM の作詞作曲など）も紹介された。

⇒この話題を踏まえて、高校生ブースを設けることにより、生徒本人だけでなく、保護者や関係者などにも話題が広がりやすくなり、ひいては、まつり全体の盛り上がりへの波及効果への期待も持てる。

若者を単なる「参加者」として捉えるのではなく、発想転換によって企画や運営そのものを任せることで、本人の主体性と共に周囲への波及効果が生まれるのではないかな。

6. 高校生アンケート結果

回答数:8件

問1:全体を通して高校生議会はどうか

とてもよかった	5
よかった	3

「どちらでもない」、「不満」、「とても不満」は回答数0件

問2:グループでの意見交換はどうか

とてもよかった	6
よかった	2

「どちらでもない」、「不満」、「とても不満」は回答数0件

問3:全体的なご意見、ご感想

- ・少し緊張して、議員さんの質問などをちゃんと回答できなかったりして申し訳なかったです。このような場所に来ることがないので、すごくいい経験になりました。ありがとうございました。
- ・初めて議会で話して緊張したけど、自分のためになったので良かったと考えた。
- ・生徒、議員との意見交換がとてもためになった。
- ・議員の人々と交流できたのが新鮮で楽しかった。
- ・高校生として、こういうお話をする機会が無くてすごく楽しかったです。
- ・本日は高校生の意見を熱心に聞いていただきとてもいい経験になりました。
- ・僕たちは学生としての意見を話し、議員の方々からは大人としての意見をいただき、とても有意義で勉強になる時間でした。
- ・様々な意見が聞けてとても来てよかったなと思います。貴重な体験をありがとうございました。